

外国人の雇用、就労の相談窓口

「外国人労働人材関係相談窓口」

外国人の雇用や就労に関する問題・お悩みを総合的に受け付ける相談窓口をオープンしました。外国人材の受け入れを検討していて、制度概要を知りたいといったご要望、在留資格や労働条件に関するご相談・ご質問など、お気軽にご相談ください。行政書士や社会保険労務士への相談もご案内できます。外国人の方からの就労に関するご相談も受け付けています。



外国人の雇用、就労に関する問題・お悩みについてまずはお気軽にご相談ください！

外国人労働人材関係相談窓口

問い合わせ先 ☎087-832-3400

場所 高松市番町四丁目1番10号  
香川県庁 東館6階 労働政策課内

受付時間 月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く)8時30分～17時15分

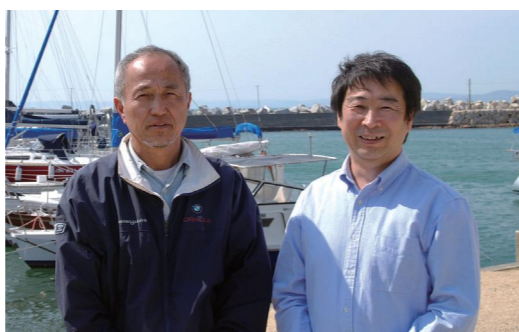
外国人の方の生活相談はこちらへ  
かがわ外国人相談支援センター  
☎087-837-0411

アイバル香川2階  
(高松市番町1丁目11-63)  
火曜日～日曜日 9時～16時

※5月24日までは労働政策課内、5月28日からはアイバル香川となります。



オーナー会



須加田さん、岡崎社長(左から)



挑戦する  
かがわの 15  
ものづくり企業

オーナーの価値観に左右される業界で、信頼とクオリティを武器に安定したニーズを守り、選ばれ続けて約90年。小豆島発、日本を代表するトップメーカーとなった香川のものづくり企業をご紹介します。

岡崎造船株式会社  
住所 土庄町大部338  
創業 1930年  
☎0879-67-2016  
http://www.okazakizosen.co.jp/



「Plusα」のものづくりで  
あらゆる「だわり」に感える

プレジャーヨット界で  
日本を代表するビルダー

大海原に帆を張り、さっそうと風を切るヨット。居住空間を備え、プレジャーから長距離航行やレース競技までさまざまな楽しみ方がある、実に奥の深い世界です。

そんなセーリングヨットを一艇一艇手造りで手掛け、ヨット界では知らない人はいないと言われるビルダーが、実は小豆島にあります。土庄港から島の北側へ30分ほど車を走らせると、ヨットがいくつも停泊する小さな港が見えてきました。海沿いの本社事務所は趣のあるたたずま

いで、木造の内装はなんだか船の中を思わせる雰囲気。「工場のすぐ裏が砂浜なので、進水式ができるんですよ」と笑う代表取締役の岡崎英範さんは、岡崎造船株式会社の4代目社長に当たります。

同社は1930年創業、主に木造船を造っていましたが、創業間もない32年からプレジャーボート界にも進出。どちらも手掛ける造船スタイルは、当時からかなり珍しかったと言います。53年の香川国体をきっかけに競技用ヨットのオーダーが増え、63年に映画化された「太平洋ひとりぼっち」の撮影用ボートを提供するなど、大きく飛躍を遂げました。

73年に日本初のFRP(繊維強化プラスチック)高速旅客艇を建造し、木造船の製造を終えた現在はFRP艇が主力商品となっています。特徴は何とんでも完全受注生産のハンドメイドであること。1艇約3カ月、年間5〜6艇という生産ペースで、国内で造られるFRPクルーザーヨットはほとんどが同社製という、名実ともに日本のトップ企業です。

オーナーの命を預かる  
堅固なものづくり

FRP艇も内部は木造で、当社が長年培った造船ノウハウを船大工たちがいかんなく発揮しています。既製品の輸入ボートも多い中、同社を選ぶのはこだわりのあるオーナーたち。設計は国内外一流のヨット専門デザイナーに依頼し、高い造船技術と洗練されたデザイン性でファンを獲得しています。「間取りや内装のカスタマイズの自由さが魅力だというお客さまが多いですね。最近の船はあっさりしたモダンな内装が主流ですが、クラシックにつくり込んでいきたい人たちに選ばれています。船は大きいほどいいという時代から小型でフルオプションへ、嗜好の変化を感じます」と、営業部長の須加田裕司さん。

り、生活空間でもあります。お客さまの命を預かる仕事ですから、とにかく丈夫さを追求しています。このくらいあれば大丈夫、というラインをもう少し強化する「プラスのものづくりです」という岡崎さんの言葉裏付けるように、進水40年以上という船も少なくありません。メンテナンスやアフターサービスにも力を入れ、年1回はオーナーたちが集まる会を開催。小豆島は各地から船でのアクセスに好立地で、オーナーにとっては「瀬戸内の島に行く」というのも楽しみの一つなのだとか。

「ヨットは自然相手の乗り物であ

一定のニーズを維持している同社の今の課題は、オーナー層と作り手、双方の高齢化です。「1艇丸ごとハンドメイドというのは、作り手としても面白い。プラモデル好きが高じて」という社員も多いんですよ」という岡崎さん自身も、国内外で造船を学んだ技術者です。「ヨットは価値観に左右される趣味で、維持費もかかるし、特に新艇は家を1軒買うようなもの。でも中古艇のレストアなら比較的手頃ですから、今後はそこに注力してヨット人口を増やしたい」と、展望を語ってくれました。

問い合わせ先  
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課  
☎087-868-9904